

第3回「みどりGXアワード」募集要項

2026年10月6日
株式会社日本農業新聞

1. 趣旨

日本農業新聞は、農業の環境負荷低減や脱炭素化、気候変動への適応など、「持続可能な食と農」の実現を目指すコンソーシアム「みどりGXラボ」を2024年に設立し、運営しています。先進事例や最新の動向を共有するとともに、会員同士の交流・連携を通じ、課題解決の手法を探ることが目的です。

この活動の一環として、「持続可能な食と農」の優れた実践事例を表彰する「みどりGXアワード」を開催します。

本アワードを通じて、先進的な事例を広く周知し、全国各地での取り組みの加速と社会全体の意識向上を目指します。

2. 主催者

株式会社日本農業新聞

3. 対象

表彰はいずれも、農業の環境負荷低減や脱炭素化、気候変動への適応などに先進的に取り組む事例を対象とします。なお、開催年度のみどりGXラボセミナー・イベントの登壇者については、自動的に選考の対象とします。

4. 表彰

グランプリ ほか入賞若干数

5. 応募種別

次の3部門から取り組みが近いものを選び、応募してください。

- (1) 農業部門＝農業者、JA など生産現場が実践する取り組み
- (2) 連携・支援部門＝行政や消費者、食農関連企業など、生産現場以外の主体が生産現場と連携して実践する取り組み
- (3) 次世代・若手部門＝学生・生徒、およびおおむね40歳未満の者が中心となって実践する取り組み

6. 参加資格

- ・日本国内を拠点に活動している個人、法人、団体、連携体（大学等の教育機関に所属する教員、クラブ・部活、研究者個人の活動も含まれます）
- ・応募内容が過去3年以内に実施された、または現在進行中の取り組みであること
- ・特定の政党の支持や宗教の布教を目的とした取り組みではないこと
- ・2027年3月に東京都内で開く表彰式およびトークセッションに参加できること

7. 応募方法

本募集要項を確認・同意の上、所定の応募フォームに必要事項を記入し、2026年12月15日（火）までにお申し込みください。

8. 審査基準

みどりGXラボが目指す方向性である「みどりGX宣言」の観点から、下記の4項目に着目し、総合的に評価します。

（１）環境の持続可能性への貢献

例）環境負荷低減や脱炭素の効果が明確、可視化されている、効果が大きい／環境負荷低減や脱炭素に役立つ新たな技術の導入など、挑戦をしている

（２）農業経営の持続可能性への貢献

例）費用、労力などの面で生産現場が導入・継続しやすい工夫をしている／取り組みによって収益が出る、コストが削減できるなど、農業者の経営安定に好影響を及ぼしている

（３）地域の持続可能性への貢献

例）取り組みを個々の生産者にとどめず、地域内外に積極的に広げている／取り組みの結果、当事者だけでなく地域全体にメリットが生じている／取り組み当事者以外の理解や支援を得ている／若者や学生・生徒らが参画している／取り組み内容を積極的に発信している

（４）多様な主体の連携

例）産地と消費者、実需者、企業、学校などが連携して取り組んでいる

9. 審査の方法

みどりGXラボの代表および運営委員による書類審査を行い、受賞者を決定します。

- ・みどりGXラボ代表：枝元真徹氏（大日本水産会会長、元農林水産事務次官）
- ・みどりGXラボ運営委員（５名）：
 - 入江満美氏（東京農業大学国際食料情報学部教授）
 - 香坂玲氏（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
 - 鈴木定幸氏（茨城県常陸大宮市長）
 - 土井花野氏（ビビッドガーデン広報PR 統括部長）
 - 山下正明氏（兵庫県JAたじま代表理事組合長）

10. 受賞者の公表および通知

受賞者は2027年2月に「日本農業新聞」紙上およびみどりGXラボ公式サイトにて公表し、報道発表も行います。受賞者には、公表に先立ち、事務局よりご連絡します。なお、審査経過に係るお問い合わせや、審査結果などに対する異議申し立てなどについては受け付けません。

11. 表彰と副賞

- ・2027年3月に東京都内で開催予定の「みどりGXサミット」にて、表彰式と受賞者によるトークセッションを行います。受賞者にはトロフィーを授与します。受賞者（代表者）の会場への交通費は、当社が負担します。表彰式およびトークセッションは、当社や他の報道機関による取材の可能性があります。
- ・受賞者には、別途定める規定に基づき、「みどりGXアワード」ロゴマークの使用を認めます。

12. 応募情報の取り扱い

- ・応募フォームに記載された個人情報は、当社の個人情報保護方針 (<https://www.agrinews.co.jp/page/privacy>) に従って適切に取り扱います。
- ・応募情報はみどり G X ラボの活動の参考とし、審査結果にかかわらず、今後のセミナーなどでの登壇や取材を依頼する可能性があります。

13. 事務局・お問い合わせ先

株式会社日本農業新聞 ソリューション事業部（担当：玉井、石川）

〒110-8722 東京都台東区秋葉原 2 - 3

Eメール：midorigxaward@gmail.com

以上